

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	NGO のパワーを TICAD へ—アフリカ啓発・提言事業
(2) 実施団体名	市民ネットワーク for TICAD
(3) 実施期間	2017 年 5 月 9 日から 2018 年 1 月 31 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	東京
(6) 活動概要	
<p>①活動の背景：</p> <p>2017 年度は TICAD VI の実施における初年度であるため、アフリカで活動する市民社会を TICAD 共催者らの中で積極的に位置づけていくべく、まずは日本政府や共催者から作成を求められているアフリカで活動する NGO ダイレクトリーを作成する。そしてこれらを、企業等を対象とした 4 回連続セミナーの中で配布し、政府や企業、国際機関と市民社会とのパートナーシップの強化を目指す。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>第一に、アフリカで活動する NGO ダイレクトリーを日英版で作成し、TICAD 関連会合や本ネットワーク主催セミナー等で配布し、市民社会と多セクター間の連携の強化をする。</p> <p>一般市民及び企業を対象とした「アフリカ連携事業と課題」連続セミナーを計 4 回開催し、企業や国際機関、在日アフリカ人、市民社会のアフリカや日本国内でのネットワーク化と、セクター間連携を強化する。</p>	

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容

【実施内容①】

<アフリカで活動する NGO リストの作成>

●作成について

当会事務局であるアフリカ日本協議会のウェブサイトに掲載されていたアフリカに関連する団体リスト（ただし、リスト作成はウェブ上のみ。2007年に作成）に加え、会員団体やアフリカ関連メーリングリストで情報提供を呼び掛けて得られた情報をもとに、メールおよびメールがない場合は電話、ハガキ、Facebook のメッセージ等でダイレクトリーの作成の趣旨に賛同いただいたうえで、掲載を依頼した。特に情報の少ない地域については、地方の JICA 事務所や国際交流協会の協力も得ることができた。情報の確認がとれにくい団体についても、広くウェブサイトで検索し、活動内容を確認してから掲載依頼を送信した。声をかけた団体は 150 団体以上にのぼる。締め切りになっても返信が得られない団体には個別に声をかけて協力をお願いし、とくに小さな団体については、団体の状況にあわせて（担当者の海外出張による不在など）締め切り日や返信方法を都度、変更しつつ対応した。原稿を完成させた後に、再度、掲載団体に締め切りを決めて確認を依頼し、修正を経て印刷した。

●掲載団体は英語版 109 団体、日本語版 110 団体である。

●配布について

掲載団体には、海外を除くすべての団体に送付した。英語版を先に印刷し、8 月後半にモザンビークで開催された TICADVI フォローアップ閣僚級会合にて約 200 冊を配布した。その後は当会主催のイベントのほか、他団体のアフリカ関連のイベント、グローバルフェスタとよこはま国際フェスタでも配布した。また、JICA（本部、国内拠点、在外事務所（アフリカ地域）計 42 か所）に 70 冊、世界銀行東京事務所に 50 冊、よこはま NGO ネットワークに 80 冊などを送付した。1 月 31 日までに、英語版 650 部、日本語版約 1000 部を配布済み。

また、PDF 版を当会ホームページに掲載し、加筆や変更については随時修正している。（ただし、日本語版については、容量が重いため当会ウェブサイトに掲載できず、他団体のサーバーを利用している）

●アフリカ開発銀行・世界銀行にてアフリカ関連のセミナー等で継続的に配布

【実施内容②】

<連続セミナー>

●第 1 回セミナー

概要：アフリカ民主主義・リーダーシップ研究所（IDEA：本部ケニア・ナイロビ）所長のデニス・コーデ氏をメインスピーカーに迎え、8 月に実施後再選挙になったケニアの大統領選挙から見えるケニアの民主主義促進に向けた活動とセクター間の連携について話を聞いた。また、コメンテーターとしてアフリカ研究者の白戸圭一氏（三井物産戦略研究所）氏を迎え、ケニアの民主主義事情のこれまでの経緯や学ぶべき点などについて発表してもらい、参加者とともにディスカッションを行った。終了後は、同会場で引き続き交流を行った。

日時：2017 年 10 月 4 日（水）午後 2 時～4 時

場所：聖心女子大学グローバル共生研究所

タイトル：暴力を止め、グッド・ガバナンスを促進する市民社会の役割：ケニア大統領選挙の事例から =ア

フリカ民主主義・リーダーシップ研究所（IDEA）所長 デニス・コーデ氏を迎えて＝

参加者数：31名

プログラム：

1. 開会挨拶：大橋正明（聖心女子大学グローバル共生研究所所長）
2. 講演者紹介：稲場雅紀（市民ネットワーク for TICAD 世話人）
3. 発表：デニス・コーデ（アフリカ民主主義・リーダーシップ研究所（IDEA）所長）『Civil Society/NGO's Activities on Election Governance and Democracy in Kenya, Achievements and Challenges after the Post-election Violence in 2007-2008』
4. 解説とコメント：白戸圭一（三井物産戦略研究所）
5. 発表者の対話と質疑応答：ファシリテーター 稲場雅紀
6. 閉会と交流会

発表内容など：

- ・2017年8月の大統領選挙は10月26日に再選挙となった。最高裁判所の判断で再選挙が決定したことは司法、行政、立法の三権分立が機能しているある種の証になった。
- ・ケニアで選挙のたびに生じる政治的な混乱について、欧米メディアは部族対立を強調するが、部族の違いを為政者が政治利用している側面はあるものの、混乱の本当の理由は「部族対立」ではない。
- ・選挙や民主主義に関する一般の人びとへの啓発活動が重要であり、市民団体のみならずメディアを含む他のセクターと連携することが重要である。
- ・世界の各地で排他的な傾向が強まっており、「民主主義」は、ケニアのみならず、日本にとっても課題である。ケニアは「民主主義」の面では、アフリカ諸国でも進んだ国であり「互いに学びあう」姿勢が必要である。（白戸）
- ・選挙後の政治状況については未知数である。今後も国内 NGO だけではなく、各国の市民社会やメディアなども含めてネットワークを組み、混乱が最悪の事態にならないよう注視していく必要がある。

●第2回セミナー

概要：2017年7月ニューヨークで開催された SDGs フォーラムと8月にモザンビークのマプトで開催された TICADVI フォローアップ閣僚級会合についての報告とともに、これらの機会を通して明らかになった NGO と政府、メディア、民間企業との連携の可能性について議論した。

日時：2017年10月5日（木）午後2時～3時30分

場所：聖心女子大学グローバル共生研究所

タイトル：アフリカの SDGs とアジェンダ 2063 達成に向けた パートナーシップ 国連ハイレベル政治フォーラムと TICADVI フォローアップ閣僚級会合の サイドイベント報告

参加者数：24名

プログラム：

1. 開会の辞
2. 国連ハイレベル政治フォーラム～概要および市民社会のサイドイベント報告～
3. TICADVI フォローアップ閣僚級会合～概要および市民社会のサイドイベント報告～
4. TICADVI フォローアップ閣僚級会合で浮き彫りになった課題
5. 質疑応答とディスカッション
6. 閉会と交流会

発表内容など：

- ・SDGs の推進に向けて、アフリカでは国やセクターを超えて協力する姿勢がサイドイベントにも反映されていた。また「アジェンダ 2063」というアフリカ主導で策定されたアフリカによるアフリカのためのアジェンダとSDGs など異なる枠組み間の調整、連携が必要である。
- ・モザンビークでの閣僚級会合では、西サハラ問題に関して共催者・加盟国の間で混乱があり、本会議の前の高級実務者会合や、開会式の後の第1セッションが開催されなかった。
- ・開発や投資の活発化について多くの時間が割かれたが、SDGs やアジェンダ 2063 について閣僚級会合内で触れられることはなかった。
- ・サヘル地帯におけるテロ・暴力・紛争対策の中で、近年、G5（サヘル 5 カ国）による合同軍事介入などが行われた。これらを含めアフリカの人権、民主主義、ガバナンスの向上などに関して、多岐にわたる分野で異なるセクターが連携する必要がある。
- ・SDGs ハイレベルフォーラム、TICADVI フォローアップ閣僚級会合を終え、今後、経済成長志向の開発の枠組みに対して市民社会としての代替案の提示が鍵になる。

●第3回セミナー

概要：株式会社 LIXIL（Public Affairs 部門 小田茜さん）と認定 NPO 法人ウォーターエイドジャパン（高橋郁さん）のトイレプロジェクト、特定非営利活動法人ベテランズファーム（元日産自動車エンジニア中島繁治さん）と公益財団法人ジョイセフ（簡野芳樹さん、船橋周さん）の発電自転車プロジェクトを例に、企業および元企業と NGO との連携事例について共有し、NGO と企業との連携の課題と今後の可能性などについて議論した。

日時：2017 年 10 月 20 日（金）午後 2 時～4 時

場所：JICA 地球ひろば セミナールーム 600

タイトル：ものづくり企業×NGO ～互いの強みを活かしてアフリカの SDGs 達成をめざす～

参加者数：41 名

プログラム：

1. 開会の辞
2. 発表 1 ウォーターエイドジャパン&株式会社 LIXIL
3. 発表 2 ジョイセフ&環境ベテランズファーム
4. 質疑と意見交換
5. 閉会と交流会

発表内容など：

- ・ウォーターエイドジャパンが取り組んでいるトイレの普及および水・衛生環境の向上は、MDGs に続き SDGs の時代も最重要課題の 1 つである。
- ・トイレの普及は行政の管轄部署が明確でない場合が多々あり、他の分野に比べて開発が遅れ、今も 23 億人がトイレにアクセスできない状況が続いている。
- ・単なる排泄場所としてではなく、地域の特性や文化にあった魅力的なトイレを作ることにより生活のなかに入りやすい「使いたくなるトイレ」が可能になっている。
- ・途上国の多くで普及し始めているリクシル社の「SATO」は、地域にあわせた柔軟性を持ちつつ、耐久性のあるトイレである。
- ・ジョイセフでは、妊産婦死亡率の高いザンビアで安全なお産を目的にマタニティハウスの建設を進めており、

村の人たちも自分たちで資金を創出する仕組みを見つけ出している。

・環境ベテランズファームでは、日産の0Bで自動車の開発にかかわっていたスタッフが試行錯誤の末に「人力発電自転車」を開発。マタニティハウスと連携し、電気の通っていない村でも夜間に安全なお産ができるようになり、自転車で妊産婦をマタニティハウスまで連れてくることできるようになった。

●第4回セミナー

概要：映画「バレンタイン〜掬」を上映し、ガーナの児童労働をなくすために活動している認定NPO法人ACEの事務局長白木朋子さんと（特活）フェアトレードラベル事務局長の中島佳織さんをパネリストに企業とNGOの連携および児童労働や貧困をなくすための課題について議論した。

日時：2018年1月28日（日）

場所：NATULUCK 神田北口駅前店 3階大会議室

タイトル：「チョコレートを通じてアフリカとSDGsを考える」映画バレンタイン〜掬上映および児童労働のないカカオ実現に向けてのパネルトーク

参加者数：38人

プログラム：

1. 開会の辞
2. 映画「バレンタイン〜掬」上映
3. 小グループで感想の共有
4. パネルトーク
フェアトレード・ラベル・ジャパン 中島佳織さん
ACE 白木朋子さん
5. 質疑応答と意見交換
5. 閉会と交流会

発表内容など：

- 児童労働の数は世界全体で減少傾向にあるものの、アフリカのみがここ数年で増えている。
- 世界のカカオのほとんどは西アフリカで生産されている。第1位はコートジボワール、第2位がガーナ。日本は輸入カカオの7割～8割がガーナ産である。
- 映画にも出てきたが、商品の背景を伝えようとする取り組みと関心のない人々との隔たりは大きい。しかし、その隔たりを埋めていくことも活動の一部だと考えている。
- フェアトレード商品の価格が高いといわれる理由にはいくつかあるが、最大の課題は規模の問題である。生産量が少ないことで、生産量の多い商品よりも生産、流通の工程でかかるコストが高くなってしまふ。
- フェアトレード商品とそうでない商品で、生産者の手元に残る金額は個別の商品単価でみれば多くはないが、貿易という形でまとまった量を考えるとその差は大きくなる。
- フェアトレードラベルがなくても、アンフェアな貿易による商品だとは言えない。ただし、サプライチェーンをさかのぼり、生産者の実態まで明らかになったうえで商品が生産されているものかどうかは不明である。場合によっては、メーカーが追跡できないこともある。消費者が問い合わせたり、気にしていくことが大事である。
- 欧州では公共調達で購入する製品について、環境的配慮だけではなく人権への配慮がスタンダードになってきている。消費者だけではなく、こうした国としての動きも消費者や企業に影響を与えられらる。

(3) 得られた教訓など：

- NGO リスト作成の期間が限られていたため、特に地方への働きかけの時間が少なく、首都圏中心のリストにならざるを得なかった。また、特に地方の団体は規模も小さいためにスタッフの数が限られており、情報提供やコミュニケーションには大手よりも時間を要する。全体として、もう少し長い期間を設定し、計画をたてることが必要であったと感じた。
- 海外の関係者から、本リストを重宝する声が多くあり多言語の情報発信が不足していることを改めて痛感した。
- 団体もプロジェクトも常に変化を続けており、情報の変更、修正などの更新を簡易に行う方法が必須であると感じた。
- ダイレクトリーの送付にかなりの送料がかかっている。まとまった数であれば着払いで送ることが可能だが、冊数が少ない場合の対応について検討する必要がある。
- ネットワーク団体であるためセミナーの開催時期や時間帯の調整は容易ではなく、単体での開催より早めの計画策定が必要である。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

- NGO リストをタイムリーに更新し、より使いやすくするため、PDF の掲載だけではなくウェブ上に直接掲載し、また検索・ソートできる方法などを検討する。
- ダイレクトリーに関する送付申込書をウェブサイトに掲載し、また大学や研究機関、企業などを含めて本ダイレクトリーを配布している旨を広報し、送付リクエストにつなげる。特に、企業と研究機関の潜在的なニーズはあるため、告知の方法を一考し十分な活用を目指す。
- セミナーで強化した他セクターとのネットワークを来年度の TICADVII に向けた活動のなかで活用する。
- セミナーで明らかになった多様な連携事例を念頭に、今後さらなる連携の可能性や良い事例を多様なアクターに活用してもらえよう蓄積する。
- 今後、その他の言語での発信も検討する。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

- ディレクトリーの作成は期間や資源などの制約はあったものの、配布した際には、英語版、日本語版ともに好評である。「こういうものが欲しかった」という感想を特にアフリカに関わる人々から聞いている。
- ディレクトリーを掲載した小規模の団体から「様々な分野で活躍しているほかの団体が掲載されている同じディレクトリーに掲載してもらえてうれしい」という感想があった。
- 第1回アフリカセミナーでケニアの民主主義について取り上げたときは、ジャーナリストも複数名参加しており、改めてトピックの注目の高さを感じた。
- アフリカセミナーの第3回には、大手メーカーのOBの方々が多く参加され、簡易トイレ、水・衛生、発電自転車などに関する技術的な議論が盛り上がった。現役のときと異なり、限られた資金のなかで技術を駆使することにやりがいを感じるという声が印象的だった。
- 第4回の映画の上映では、「フェアトレードが日本に少ないのは国の関与が少ないからだと思う。もっと国が関与すべきだと思う」や「負の連鎖というものがどういうことなのかがわかった。そしてそれにどう立ち向かうか、ヒントをもらった」、「児童労働をなくすためには、大人たちに教育の必要性を知ってもらうことをだと聞いて、とても納得した」、「自分の身近なところからできることをしたいと思った」などの感想をもらった。

(2) 活動の写真



(ディレクトリ日本語版(左) 英語版(右))



(第1回 開会挨拶をする聖心女子大学グローバル共生研究所の大橋 正明所長)



(第1回 講演者を紹介する稲場氏)



(第1回 講演に力がこもるコーデ氏)



(第1回 白戸氏と共にディスカッション)



(第1回 参加者からの質疑応答)



(第2回 HLPFに関する解説をする稲場氏)



(第2回 閣僚級会合の解説をする高橋氏)



(第2回 参加者の様子)



(第3回 講師の(株)リクシル、小田氏)



(第3回 人力発電自転車を開発した中島氏)



(第3回 元メーカー勤務の方も多く参加)



(第4回 開会の様子)



(第4回 パネルトーク)



(第4回 パネリスト 中島佳織氏)



(第4回 パネリスト 白木朋子氏)